

丹波山事典とは

丹波山村の中心集落である丹波宿の入り口近くに立地する民家を、多目的に使えるCafé + ワークスペースとして再生して作り上げた、「リアル的事典」空間です。

丹波宿への玄関口（ゲートウェー）に、丹波山での遊び、暮らし、仕事にまつわる「7」つのテーマにまつわる「体験そのもの」を事典のように詰め込みました。

ここでは、食事の提供やモノの販売を目的とした施設ではありません。丹波山の自然、文化、営みに触れてもらう、自分だけの丹波山を見つけてもらう、そして明日への糧となるインスピレーションを感じてもらうことを目指した、ライフスタイル提案型施設なのです。

丹波山事典：7つのテーマ

■ 一：丹波食

環境に合わせ工夫から生まれた食文化

■ 二：暮らしと遊び

自然、自給自足、祭り

■ 三：多摩川源流

多摩川、夕川、アユ、ヤマメ、砂金

■ 四：山の恵み

ジビエと山菜、キノコと暮らし、森

■ 五：村仕事

木工、DIY、ワーキングスペース

■ 六：歴史と伝承

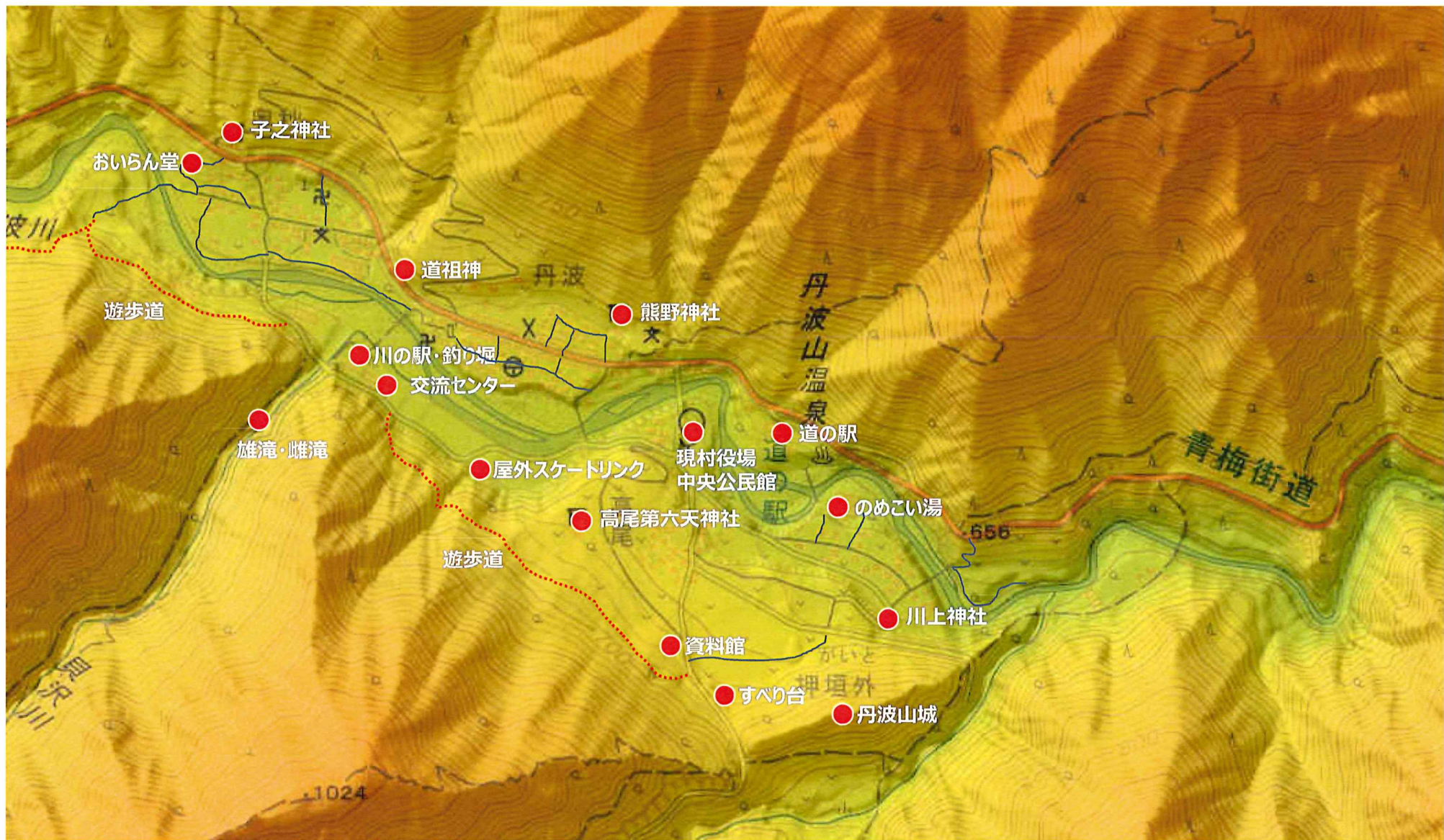
歴史と伝承、七ツ石神社、信仰

■ 七：宿場と交流

交通の要衝、情報の交換、交流と出会い

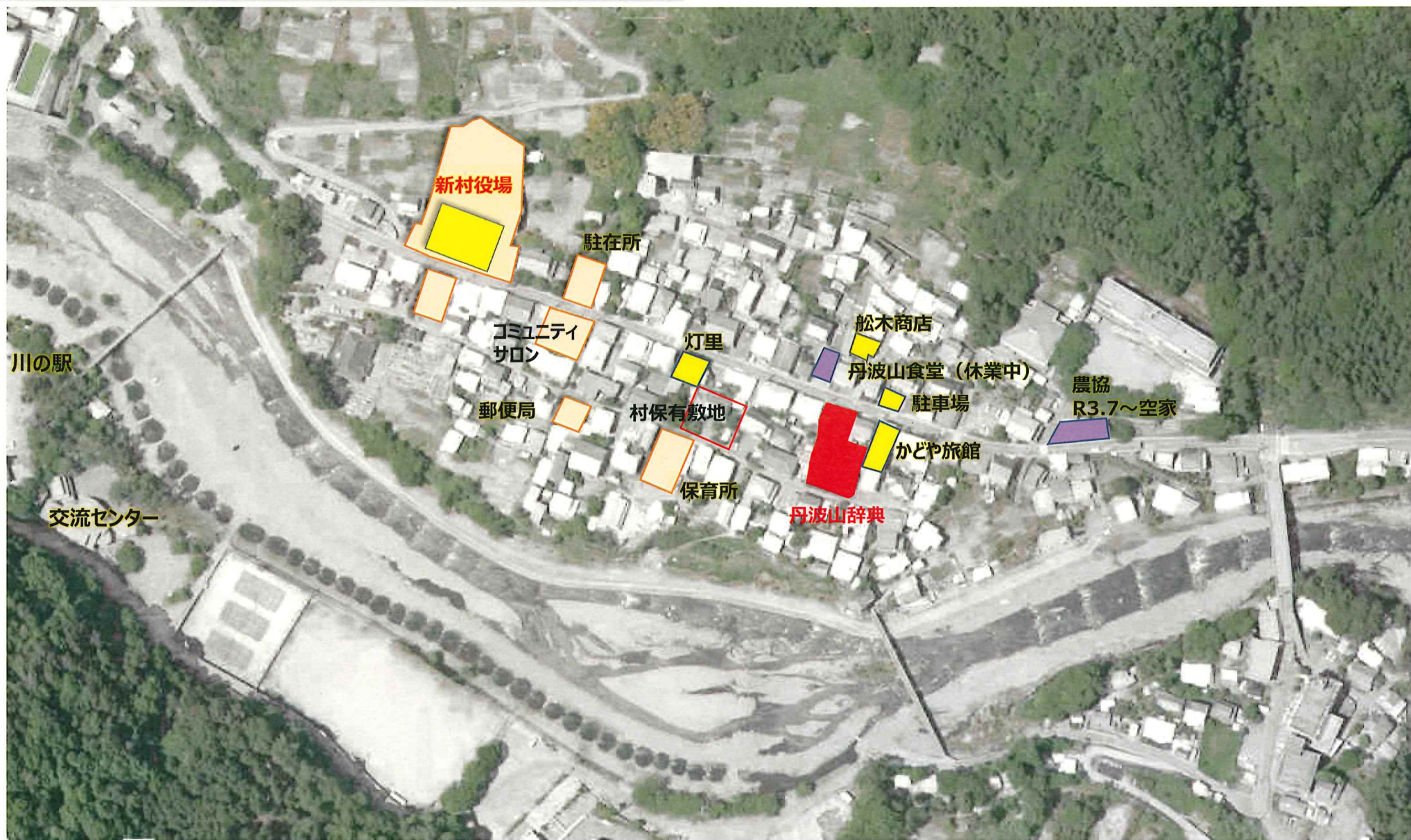
丹波山村 本村 周辺地形図

現時点での主なコンテンツ候補（本村周辺）
今後、丹波山辞典の企画に合わせてこれらを充実してゆく



丹波宿再生計画図

宿全体で、面として魅力をつくっていく
新庁舎と、丹波山辞典が連携し、役割を分担しながら間を埋めていく



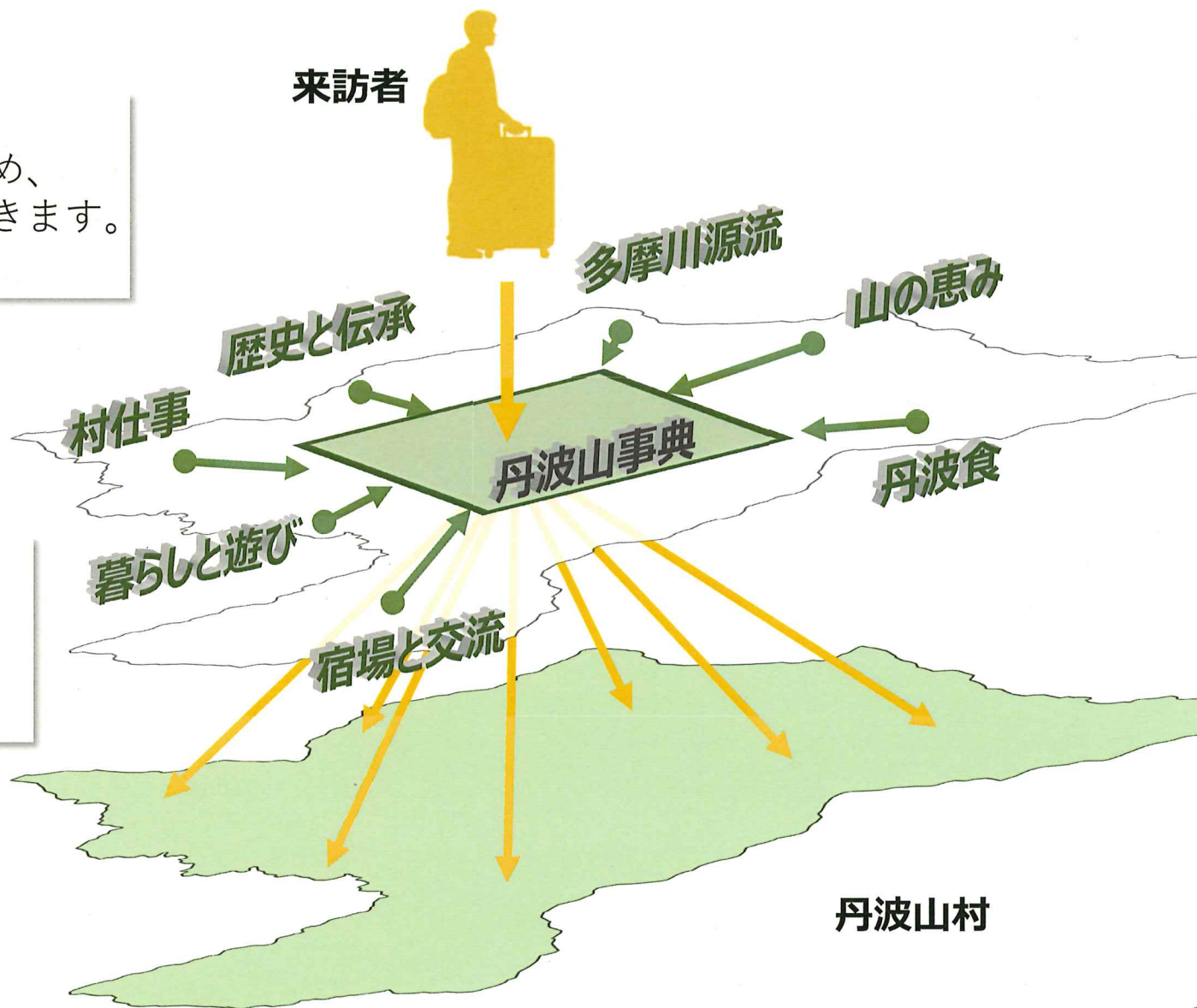
丹波山事典：街づくり関連ダイアグラム

STEP 1

丹波山村の体験を玄関口に集め、事典を開くようにアクセスできます。

STEP 2

丹波山事典をきっかけに、より深く広い自分だけの丹波山村を発見していきます。



1-5 『ジビエ料理』

国産ジビエ認証を受けたジビエを産地で味わう

サービス内容

鹿肉がどのような工程を経て料理になったかを映像や写真などで説明し、料理を味わってもらう。

実際に料理がどのようにできているかということを理解し、食べることで料理のありがたさなどを学ぶきっかけになってほしい。



意図と背景

現在当村で丹波山村の鹿肉料理を味わえるのは、道の駅軽食堂のみである。

丹波山村のジビエ施設は今年国産ジビエ認証を取得しており、国内で19番目の認証施設になるそう。

利用者・顧客のターゲット

村に特産品を食べに来る人

狩猟文化に興味がある人

命をいただくことを学びたい人

3-1 『丹波川』

多摩川の清流からの恵みで、遊ぶ、食べる、癒される。

サービス内容

上流部の良質な水質と適度な水量で、大人から子供まで安心して川で遊んでもらう。

魚とり、シャワークライミング、釣りなど

清流で育った、上質な鮎や貴重なカジカを味わってもらう。

新しい働き改革の中で、川の音をBGMに仕事ができる。



意図と背景

観光資源の中心である丹波川（多摩川）は、釣りではにぎわっているが、まだまだ観光客には、川の生物や、川での楽しみ方を知ってもらいたい。

平常時は適度な水量なので安心して遊べる。

都会では味わえない川が流れる景色の中で、仕事をする価値を味わってもらう

利用者・顧客のターゲット

川で思い切り遊びたい人

上質な自然と触れ合いたい人

都会に疲れた人

新しい仕事の型を探している人

4-2 『森林（もり）』

村の大半を占める森林から与えられる多くの機能を受けながら暮らす。

サービス内容

水、空気 → きれいな水、新鮮な空気を味わえる

材 → 建築材、薪、木工品

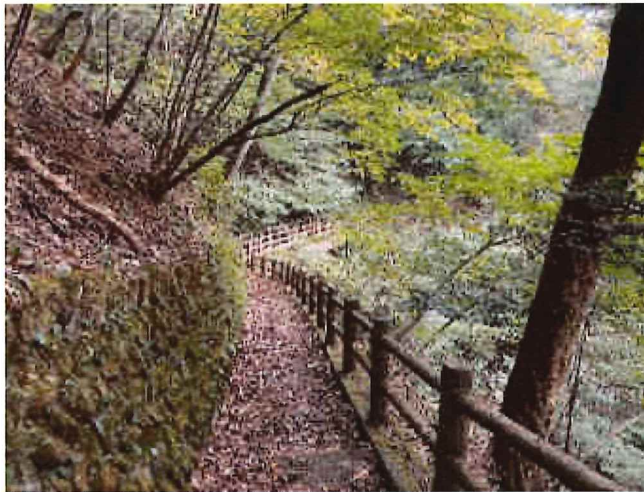
食 → きのこと、山菜、

遊び → フィールドアスレチック、キャンプ

学び → 林間学校

仕事 → 林業

健康・癒し → 遊歩道 森林浴



意図と背景

山に囲まれ、ほとんどが山林であることを利用していく。森林の持つ機能を、多くの人に知ってもらい感じてもらいたい。

木を育て、成長した木をどう利用するかを考え、体験することによって、わかることがある。

森林から恵まれる食材を食べたり、森林に住む生物を手にとってみることで、森林の大切さを知っていく。

森林の中でマイナスイオンに囲まれながら歩く、遊ぶ

利用者・顧客のターゲット

森林について学習したい子供たちや大人

取り立ての食材を食べたい人

都会で疲れている人

4-3 『ストーリーテラー』

山で語ろう。想像しよう。

サービス内容

登山を単なる登山にしない、ガイド付きの山歩き

トレッキング企画

平将門迷走ルート（七ツ石山・雲取山）

塩交易と物々交換（大菩薩嶺）

小説のヒーロートレイル（忍者丹波大介）

金山衆の仕事現場（黒川金山跡）

狼と修験者の通った道（三峰山）

猟師体験企画

オオモノウチとトマリヤマ

Eバイクツアー企画

焚き火とEバイク

ソロテントとEバイク



意図と背景

2つの日本百名山に抱かれる村だからこそそのトレッキングを提供し、他地域との差別化を図ることで、登山者やリピーター、丹波山ファンをつくりたい。伝説や小説を引用したストーリーテラーによる語り部トレッキングを定期開催する。

背景として、丹波山では、三峰山や大菩薩嶺という山岳信仰の独特な世界観を引用した小説や伝説が生まれ、甲州所縁の武将・武田信玄にまつわる史実が残る土地。トレッキングの危険度は低く、単調になりがちなコースなので、山の魅力に+プラスの価値をつけていく。

利用者・顧客のターゲット

小説好きで聖地巡礼旅がしたい人

登山に他の付加価値を求める人

一人旅が好き

6-2 『丹波金山』

金山衆は忍者？丹波山の金山採掘を探る

サービス内容

- ・金鉱跡の探索ツアー
- ・砂金採掘跡やおいらん堂等、金山に所縁のある場所を案内しながら、金山衆の活動を辿る
- ・金山と星信仰の関係をレクチャーし、星空観察
- ・地方に散見される「おもてなし武将隊」のようなものを丹波山でも結成し、そのメンバーが丹波山を案内する（丹波山忍者金山衆）
- ・宿場町の景観整備に、かつての機能を持った名前の暖簾など（「問屋場」や「金山衆詰所」といったような）を掲げる



意図と背景

観光客にとって丹波山には金山のイメージがまだ無い。隠れた金の産出地ということで、ここにも金山があったこと、作業者たちが忍者のような役割を担っていたことをPRして、「忍の里」のようなミステリアスな雰囲気を出す。

金山衆の存在は、景観整備にも文化面で影響していくことが期待できる。

利用者・顧客のターゲット

歴史好きの人。海外からの観光客や移住者。登山客。「日光江戸村」のような、没入感のある観光地を求める人。